



学校教育目標：心やさしく 進んで学び たくましく生きる子どもの育成

子どもの☆☆キラリ☆☆輝き!



前にもお伝えしましたが、子ども達は、登校してくると児童玄関前やその周辺のボランティア清掃に取り組んでいます。その中心となっているのは神小のリーダー、5・6年生です。しばらく前(10月)ですが、こんなことがありました。

学校前の道向かいにバス停があり、トイレ付きの待合所があります。定期的に掃除がされているのだと思いますが、きっと毎日何度も掃除をするというわけにもいかないでしょう。時に汚れていることもあり、あまり使われた様子がありません。



バス待合所



そこに気づいた5・6年生の子ども達は『使ってもらえるトイレ』を目指すという目的を持ち、朝ボランティアでのトイレ掃除を始めました。

バス停のトイレ掃除を始めて一週間が過ぎた頃、子ども達が担任に『使ってもらった形跡があった』と嬉しそうに報告してくれたそうです。

「自分達のしたことが人の役に立った」、「誰かの役に立った」というこの貴重な経験。子ども達は、大きな大きな満足感や充実感を味わうことができました。

使った人に会ったわけではないので、直接、褒められたわけではありません。

「誰かから褒められた。他者から褒められた」という外的な要因ではなく、

自分自身が、自分自身で「誰かの役に立てた」という喜びを感じているのです。



他者からの評価を気にした行為ではなく、自己評価として満足感を味わえたからこそ、本物の力となっていくます。

「人の役に立てた」というこの経験と満足感・充実感は、子ども達の心の奥にしっかりと刻み込まれました。きっと「いつか、どこかで、何かで人の役に立ちたい」という思いを持って成長していくでしょう。きっと「いつか、どこかで、何かで、誰かのおかげだ、ありがとう」と感謝する気持ちを持てる人になるでしょう。

毎日ではありませんが、今も時々、待合所のトイレ掃除を頑張っています。すくすくと素直に温かく育つ神小の子ども達です。



今月の栄養指導では、『正しい箸の持ち方と使い方』について指導していただきました。



①箸の真ん中より上を持つ。

②箸と箸の間に、中指を。

③上の箸だけ動く。・・・など

実際に豆つかみなどをしながら教えていただきました。栄養教諭の近藤先生、ありがとうございました。

